



果樹特報

No.3

平成 29 年 4 月 21 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

展葉時点では昨年より 10 日程度遅く、このまま経過すればふじの開花は月末の見込みです。ただし、土壌水分が保持されており、短期間の高温で満開まで一気に到達する可能性があります。各園の生育状況を確認し、計画的な管理作業・薬剤散布に努めてください。

展葉後の降雨で黒星病一次感染拡大が始まりました。黒星病・うどんこ病予防のため、今回から 5 月下旬までは防除間隔を 10～12 日程度として進めてください。尚、越冬害虫（ケムシ類他）の急激な発生も心配されます。多発する前の予防散布を徹底してください。

りんご

りんご	ふじ(平岡)		
年度	発芽	開花	満開
H27	3/31	4/27	4/29
H28	3/31	4/21	4/23
H29	4/7		

～ 参考 ～

現状では、南部と北部地帯の生育差は小さい状況です。土壌条件等で差はありますが、南部地帯で 4 月 25 日前後、平岡地帯で 4 月 28 日前後を見込んでいます

◆開花期の薬剤散布

散布時期：蕾のセパレート状態（中心花と側花の蕾が離れた状態）が確認された以降から、ふじの花が 1～2 輪咲いた時が適期です。

散布時期：4/25 ～ 5/2 頃 *注意事項③、④参照

*上記は目安です。各園の生育状況を良く確認してから散布してください。

散布薬剤：水

100ℓ

展着剤

10ml

オンリーワンフロアブル

50ml（7日前、3回）

トレノックスフロアブル

200ml（30日前、5回）

サムコルフロアブル 10

20ml（前日、3回）

対象病害虫：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病・ケムシ類・ハマキムシ類

10 アール当り散布量：400ℓ

散布日： 月 日

散布量： ℓ

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① 黒星病対策：感染拡大を抑えるため、雨が続く前の予防散布を徹底する。
- ② アブラムシ類の発生が心配される場合は、ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。
- ③ 訪花昆虫の保護のため指定薬剤以外使用しない。
- ④ 収穫中の作物等への飛散に注意する。
- ⑤ 不明な点は、営農センター担当までお問い合わせください。（TEL23-3933）

◆落花期の薬剤散布（5 月上中旬）は次頁をご覧ください。

◆落花期の薬剤散布

散布時期：前回より 12 日後とする。（ふじの落花後）
 開花期の薬剤散布が遅れた場合は、今回の散布を前倒して実施する。

散布日：5月 日

散布量： リットル

散布時期：5/8～ 14 頃 *注意事項③参照
 *上記散布時期は目安です。各園の生育状況を確認してから散布してください。

散布薬剤：水 100 リットル
 展着剤 10 ml
 アスパイア水和剤 200 g (30 日前、3 回)

対象病害虫：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

10 アール当り散布量： 450 リットル

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① 黒星病対策：アスパイア水和剤に代えて、スコア MZ 水和剤 500 倍（30 日前、3 回）を使用する。
- ② ケムシ類の発生が目立つ場合は、フェニックスフロアブル 4,000 倍（前日、2 回）を加用する。
- ③ 結実後の生理落果助長の回避のため、5 月末までは有機リン剤（ダズバン DF、サイアノックス水和剤、ダイアジノン水和剤等）は使用しない。
- ④ 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。
- ⑤ 不明な点は、営農センター担当までお問い合わせください。（TEL 23-3933）

【ふじの人工授粉のポイント】 *下記をお読みください。

- ① 人工授粉を実施する時は、気温・湿度・天候等の授粉環境を複合的に考慮する。⇒ 降雨・強風・極端な低温（最高気温 20℃以下）・極端な高温（30℃以上） の日はできるだけ避ける。
- ② 基本的には開花始めから満開期までが授粉能力が高い。よって開花始めから満開までのできるだけ早い時期に実施すると結実率が高くなる。
- ③ 授粉後 3 時間は極端な低温とならないような日・時間帯を選択する。
- ④ 授粉後に降雨があった場合は、3 時間以上経過していれば大丈夫であるが、3 時間以内に降雨があった場合は再度やり直す。
- ⑤ 開花バラツキが心配される。土壤乾燥が著しい場合は、開花予定の 10 日前（4/15～）から灌水を実施する。

（参考）中生 3 種とふじの交雑和合性

♀	ふじ	秋映	シナノ スイート	シナノ ゴールド	メイポール
♂					
秋映	○	×	○	×	○
シナノスイート	○	○	×	○	○
シナノゴールド	○	×	○	×	○



◆ 凍霜害を受けた場合の応急技術対策

1. 胚珠の黒変したものは、落果するので、被害程度に応じて摘花(果)の強さを加減する。
2. 被害を受けたものは、サビ果・不正形果が多いので、摘果に際しては特に傷の少ない長めの正形果を残す。
3. 摘果は結実が確実となったらすみやかに行き、少なくとも満開 30 日以内に終了する。